

2017年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観(連結)
2. 業績のポイント
3. 主要製品の状況
4. 開発品一覧

【参考資料】

5. セグメント情報
6. 業績と予想(連結)

2016年7月29日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2017年3月期 第1四半期 決算概観(連結)

(単位:百万円)

	14年3月期 第1四半期	15年3月期 第1四半期	16年3月期 第1四半期	17年3月期 第1四半期	前年比	17年3月期 第2四半期 予想	前年比	17年3月期 通期予想	前年比
売上高	26,239	26,397	26,567	27,707	+4.3%	53,900	+2.9%	120,000	+0.4%
営業利益	4,465	3,575	2,173	3,244	+49.2%	3,900	-4.9%	14,500	-26.2%
経常利益	4,681	3,847	2,316	3,485	+50.5%	4,200	-1.5%	14,900	-25.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,996	2,681	1,757	2,580	+46.9%	3,000	+1.1%	10,700	-21.6%

17年3月期 第1四半期 連結業績(実績)

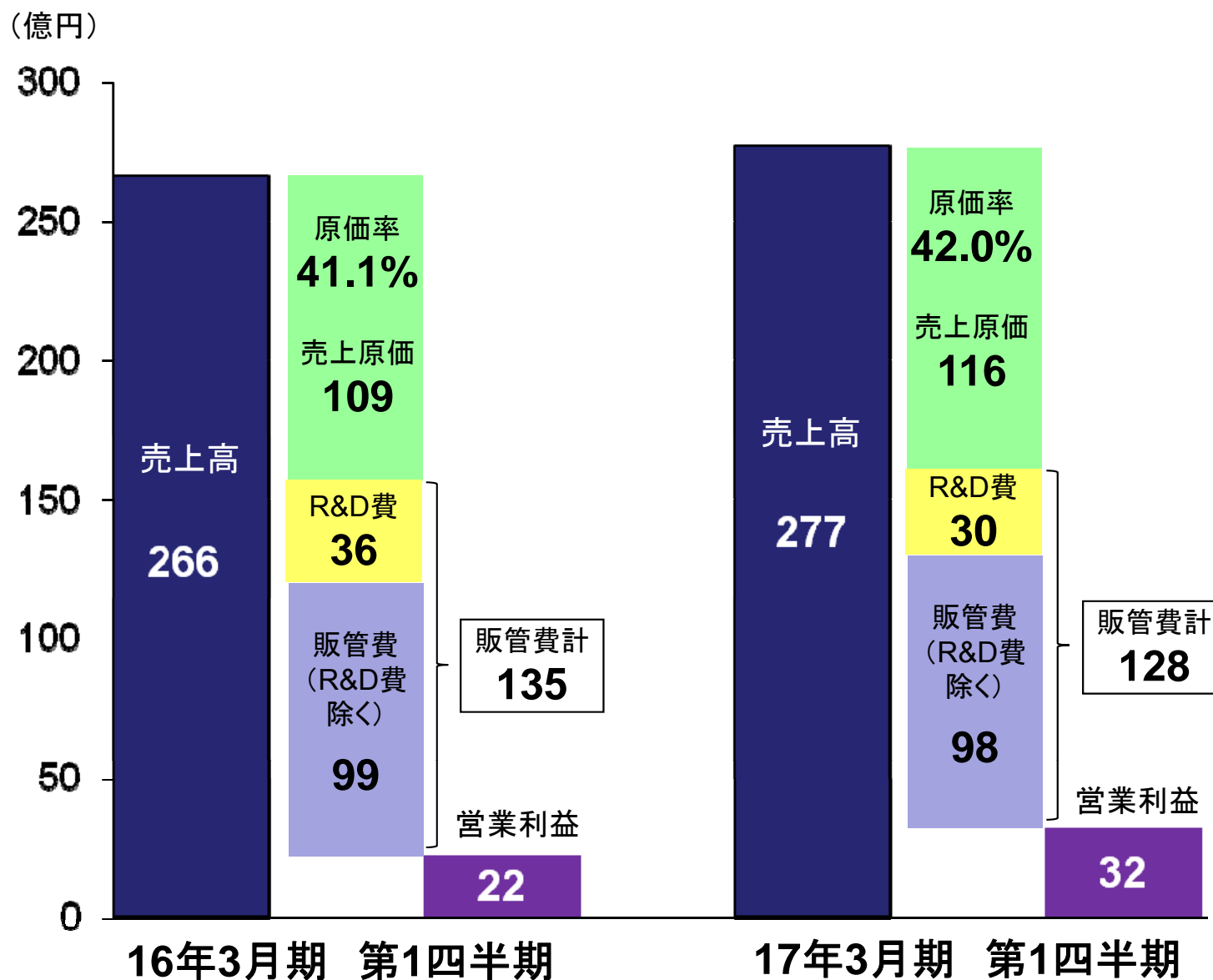
【売上高】 喘息治療配合剤「フルティフォーム」等、営業を強化している主力品が伸長し、医療用医薬品事業(新医薬品、後発医薬品)の売上が前年度を上回る実績で推移したことから、277億07百万円と前年同期比11億40百万円(前年同期比4.3%増)の増収となりました。

【利益】 薬価改定等の影響により原価率が前年同期に対して上昇したものの、売上総利益は前年同期に対して4億05百万円増となりました。また、販売費及び一般管理費が前年同期に対して6億65百万円減少(内、研究開発費5億90百万円減)したことから、営業利益は、32億44百万円と前年同期比10億70百万円(前年同期比49.2%増)の増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は25億80百万円(前年同期比46.9%増)となりました。

17年3月期 連結業績(予想)

2016年5月12日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、現段階では変更いたしません。
(第2四半期予想に対する進捗度 売上高:51.4% 営業利益:83.2%)

2017年3月期 第1四半期 業績のポイント



【ポイント】

- 売上高は前年比11億円増加
- 売上原価率は0.9%上昇
- 売上総利益は前年比4億円増加

- 販管費は前年比7億円減少
 - ・R&D費は6億円減少
 - ・販管費(R&D費除く)は横ばい
- 営業利益は前年比10億円増加

2017年3月期 第1四半期 業績の状況

(単位:億円)

(対前年)

	16年3月期 第1四半期	17年3月期 第1四半期	対前年
売上高	266	277	+11
医療用医薬品事業	253	264	+11
◆新医薬品	215	218	+3
○国内	213	217	+4
○海外	2	1	-1
◆後発医薬品	38	46	+8
ヘルスケア事業	13	13	0

営業利益	22	32	+10
経常利益	23	35	+12
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18	26	+8

※当第1四半期連結累計期間より、当社グループは報告セグメントの区分を変更しております。変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品、後発医薬品、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。また、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

■売上高	277億円	(+ 11)	
◆医療用医薬品事業	264億円	(+ 11)	
●国内新医薬品	217億円	(+ 4)	
	15.6(1Q)	16.6(1Q)	
・キプレス	95	⇒ 99	(+ 4)
・フルティフォーム	15	⇒ 23	(+ 8)
・ウリトス	19	⇒ 20	(+ 1)
・ムコダイン	32	⇒ 24	(- 8)
・ペンタサ	41	⇒ 40	(- 1)
●海外新医薬品	1億円	(- 1)	
●後発医薬品	46億円	(+ 8)	
自社販売を中心に売上が増加			
◆ヘルスケア事業	13億円	(0)	
■営業利益	32億円	(+ 10)	
◆営業利益率は11.7%と前年比3.5ポイント上昇			
●原価率：前年比0.9ポイント上昇 (41.1%⇒42.0%)			
* 主に薬価改定(杏林製薬:本体薬価ベース6%台後半)の影響			
●研究開発費率：前年比2.7ポイント低下 (13.6%⇒10.9%)			
* 6億円減少(36億円⇒30億円) 前年のプロジェクト進展による増加の反動減			
●販管費率(除くR&D費)：前年比1.8ポイント低下 (37.1%⇒35.3%)			
* 横ばい(99億円⇒98億円)			
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	26億円	(+ 8)	

2017年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位:億円)

製品名		第2四半期		通期		第1四半期(4月～6月)				
		15年9月 実績	16年9月 予想	16年3月 実績	17年3月 予想	15年6月 実績	16年6月 実績	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
国内 新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	188	176	441	333	95	99	+4.6%	56.3%	29.7%
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	30	54	72	129	15	23	+48.6%	42.4%	17.7%
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	37	36	75	78	19	20	+4.6%	54.1%	25.1%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	59	48	130	108	32	24	-25.3%	48.6%	21.9%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	81	74	161	158	41	40	-1.5%	53.5%	25.2%
	デスロラタジン(一般名) (アレルギー性疾患治療薬)	—	—	—	19	—	—	—	—	—
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	10	10	21	21	5	5	+4.3%	49.7%	24.4%

開発品一覧①(2016年7月29日現在)

PhⅢ ~承認

※:前回(2016年3月期 5月12日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
PhⅢ (15年1月)	【米国、欧州、他】 米国ルク社 :PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 ルク社	膀胱のβ ₃ 受容体に作用する事で、膀胱弛緩作用を増強し、頻尿の改善が期待される	米国ルク社とライセンス契約 (14年7月) キッセイ薬品工業(株)と共同開発・共同販売に関する契約を締結(16年3月)
PhⅢ (15年4月)		KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> ・グラム陽性菌から陰性菌及び非定型菌までの幅広い抗菌スペクトラムを示す ・嫌気性菌に対しても類剤と比較し強力な抗菌活性を有する ・優れた組織移行性により、高い臨床効果が期待される ・高い安全性(血糖値異常、光線過敏症、消化器症状他)が期待される 	
PhⅢ (16年3月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		

参考

開発段階	一般名	薬効	特徴	備考
MSD(株)により申請(15年10月)	デスロラタジン	アレルギー性鼻炎 蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、 皮膚そう痒症)に伴うそう痒	第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬	<ul style="list-style-type: none"> ※杏林製薬(株)が独占販売権を取得(16年5月) ※科研製薬(株)とコ・プロモーションに関する覚書を締結(16年7月)

開発品一覧②(2016年7月29日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (再) (15年8月)	ルツ社 Ph III	KRP-209	耳鳴	ドイツ ルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph I / II (15年7月)	【米国】桃太郎源 : Ph I / II 前立腺がん(14年5月)	Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業[NexTEP]への採択 (14年6月)

開発品一覧③(2016年7月29日現在)

導出品の状況

開発段階／海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	KRP-203	スイス ノバルティス	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調節剤	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) GvHDでの開発集中を 決定(15年11月公表)
前臨床	—	米国 ブリストル・マイヤーズ スクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)

参考資料

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	277	+11	32	+10
医療用医薬品事業計	264	+11	32	+10
◆新医薬品	218	+3		
○国内	217	+4		
○海外	1	-1		
◆後発医薬品	46	+8		
ヘルスケア事業計	13	0	0	+1
調整額	—	—	1	0

(注) 当第1四半期連結累計期間より、当社グループは報告セグメントの区分を変更しております。
変更後の「医療用医薬品事業」の内容は新医薬品、後発医薬品、「ヘルスケア事業」はスキンケア・環境衛生・一般用医薬品他で構成しています。
また、前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

2017年3月期 第1四半期 業績と予想(連結)

(単位:百万円)

	第2四半期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	15年9月 実績	16年9月 予想	16年3月 実績	17年3月 予想	15年6月 実績	16年6月 実績	前年差額	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	52,386	53,900	119,483	120,000	26,567	27,707	+1,140	+4.3%	51.4%	23.1%
医療用医薬品事業	49,741	51,200	113,970	114,000	25,315	26,412	+1,097	+4.3%	51.6%	23.2%
◆新医薬品	42,357	41,800	98,506	92,400	21,499	21,805	+306	+1.4%	52.2%	23.6%
○国内	41,762	41,500	92,920	88,500	21,309	21,741	+432	+2.0%	52.4%	24.6%
○海外	594	300	5,586	3,800	189	64	-125	-66.1%	21.3%	1.7%
◆後発医薬品	7,383	9,300	15,465	21,500	3,816	4,606	+790	+20.7%	49.5%	21.4%
ヘルスケア事業	2,645	2,700	5,512	6,000	1,252	1,295	+43	+3.4%	48.0%	21.6%
営業利益	4,099	3,900	19,636	14,500	2,173	3,244	+1,071	+49.2%	83.2%	22.4%
経常利益	4,266	4,200	19,995	14,900	2,316	3,485	+1,169	+50.5%	83.0%	23.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,967	3,000	13,639	10,700	1,757	2,580	+823	+46.9%	86.0%	24.1%